



フジクリーン株式会社
代表取締役会長 渡辺 嘉一

Kaichi Watanabe

独自の高性能浄化槽がインフラ課題を解決 生活排水を微生物で浄化し、水環境を保全

生活排水を敷地内で浄化して放流する「浄化槽」。都市部では汚水を公共施設で一括浄化する下水道方式が普及しているが、地方では主に浄化槽が生活排水の処理を行っている。浄化槽の分野で高いシェアを誇り、開発から製造、施工、メンテナンスまでを一貫して手がけているのが、フジクリーン株式会社だ。微生物の力を存分に生かした水処理技術で、国内のみならず世界の水環境保全に大きく貢献する同社の取り組みと今後の展望について、代表取締役会長の渡辺 嘉一氏が語った。

建材店から浄化槽にシフト 独自技術で生活排水を処理

1957年に建材店として創業したフジクリーン株式会社は、1960年代にトイレの水洗化へのニーズを受け、コンクリート製浄化槽の製造販売に乗り出した。さらに、コンクリートに比べて軽くて扱いやすい、FRP製の浄化槽へとシフトしていった。

「当時は水処理の知識に乏しく、特許を購入したり、大学の先生方に教を請い、基礎から指導を受けながら、浄化槽の設計技術を学んできました」と代表取締役会長の渡辺嘉一氏は振り返る。

浄化槽は国の設計基準により、各社で差を出しにくい環境だったが、1980年代の規制緩和により、独自の工夫が認められる時代へと変化した。同社はいち早く自由化に向けた技術開発に注力。1984年には同業他社にさきが

けて、量産型の小型合併処理浄化槽の開発に成功した。

「従来の浄化槽はトイレ排水しか処理できず、生活排水が川を汚してしまうという課題がありました。そこで当社は、生活排水を丸ごときれいにする浄化槽をいち早く開発し、国の認可を取得したのです。当時のサイズは現在の3倍ほどもありましたが、大きなブレイクスルーでした」（渡辺氏）

以降、同社はシェアを大幅に拡大し、大きく成長していった。

コンパクトで高処理能力 微生物の力を存分に生かす

同社の浄化槽の最大の強みであり、進化の原動力と位置づけているのが「微生物」の力だ。「浄化槽の中では、自然界の微生物が生活排水の汚れを食べて分解し、きれいな水を生み

出しています。私たちは、酸素を好む微生物と嫌う微生物がそれぞれ働きやすいように浄化槽内を複数の部屋に分け、彼らが能力を発揮できる環境を構築しています」（渡辺氏）

同社は愛知県知立市の「水環境研究所」で、有用微生物の探索や浄化槽のDX化など次世代を見据えた研究開発を推進。また、微生物に酸素を供給する「プロワ」を自社開発する浄化槽メーカーでもある。

「下水道は都市部では効率的ですが、配管費用が建設費の多くを占めるため地方では各家庭を繋ぐと多大なコストがかかります。一方、浄化槽の配管は敷地内で完結し、サイズも自動車の半分から3分の2程度とコンパクトです。地中に埋めるため目立たず、短期間の設置で下水道と同等の処理機能を発揮します。きれいに処理した水が小川に流れ込むことで環境回復にも貢献できるのです」（渡辺氏）



1970年代に開発・発売したFRP製の浄化槽



施主宅での浄化槽施工の様子



アメリカ合衆国 ニューヨーク州で「Save the Bay」を掲げる施主宅

高度技術で海外展開を加速 ニューヨークの海を守る

国内市場でトップクラスのシェアを獲得した同社は、右肩下がり国内市場を見据え、2008年のオーストラリア進出を皮切りに、アメリカやドイツなど先進国へと事業を拡大した。「それまで海外では、巨大なタンクを埋めて処理するのが一般的でした。そこに小さくても安定して高い性能を発揮する日本の浄化槽を持ち込めば必ず勝機があると考えました。窒素やリンの除去など高度な処理能力が求められるエリアで勝負するのが当社の戦略です」（渡辺氏）

当初は「こんなに小さくても、十分に処理できるはずがない」と疑いの目を向けられていたが、数年で水質の良さが口コミで広がり信頼を獲得していった。

特にその頃、アメリカのニューヨーク郊外では、生活排水の窒素による富栄養化で貝類等の漁獲高が10分の1に激減する問題が起きていた。

「ニューヨーク州政府の厳格な審査の結果、当社の浄化槽が窒素除去機能において、極めて優れていると公表されたのです。漁業関係者は、より厳しい基準をクリアした、当社の高性能な浄化槽に、州政府から補助金を出すようかけ合ってくれました。高い処理能力を誇る当社の浄化槽を設置した家のオーナーが、『Save the Bay(海を守れ)』という当社のロゴ入り看板を庭に掲げ、『自分は海を守ることに役立っている』と自慢してくれています。本当にうれしいことです」（渡辺氏）

同社はアメリカ・ジョージア州に生産拠点を設けて増産体制を整えたとともに、現地の工事業者を対象とした勉強会にも注力。高いメンテナンス体制の構築にも努めている。

現在ではイギリスやノルウェーなどでも、同社の浄化槽が高い関心を集めている。

インフラの課題を解決し 世界の水環境改善に尽力

国内では近年、下水道の老朽化によるイン

フラの課題が浮き彫りになっている。「維持管理コストが高騰し、陥没事故も起きています。人口の少ないエリアでは老朽化した下水道から切り離し、浄化槽の設置が合理的とも言われ、浄化槽に対する期待の高さを感じます。また、きれいにした排水を植物を育てるために再利用する資源循環型の商品開発にも取り組みたいと考えています」（渡辺氏）

世界の水環境改善に向けて、同社の挑戦は続く。

「窒素やリンの確実な除去をはじめ、今までにない性能と信頼性を持つ、浄化槽ブランドの確立を目指します。先進国で評価が定着した後は、アジアやアフリカなど新興国にも普及させていきます。お客様が性能や水環境を考慮した結果、選んでいただける企業を目指します」（渡辺氏）

同社のすぐれた製品が世界の水環境課題を解決し、これに伴い企業のさらなる成長も期待される。

フジクリーン株式会社

【住所】〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内一丁目16-15 名古屋シミズ富国生命ビル14F
【電話】052-733-0325 【HP】https://www.fujiclean.co.jp

- 設立:1961年
- 従業員数:640名(2025年7月現在)
- 代表者:代表取締役社長 後藤 雅司
- 事業内容:浄化槽・産業廃水処理ユニット・プロワの製造販売、設計、施工、メンテナンス



BS12 トゥエルビ

BS12 TwoellV【全国放送】

6月7日(日)
18:30~放送

サンテレビ

サンテレビ【兵庫県・大阪府全域】

6月8日(月)
22:00~放送

ビジネス情報番組
賢者の選択
Shapers

一人の思いが世界を変える。
https://kenja.jp/

賢者の選択

Webサイトでも視聴できます

企画/矢動丸プロジェクト